

清流大川

羽地中学校
学校だより 116号
せいりゅうおおかわ
H30.10.29

イーラインをリードするため精一杯歌わなければ、消えてしまいそうな自分の声をそれでも信じながら歌っていました。男子も引張られ歌っていました。金賞の力と新春合唱の参加資格を持ち、一層の響きを追求してほしいものです。

1組は自由曲「アムール河の波」で勝負に出ました。練習もすっかりこなしてきました。本番で緊張してしまっただか、少し声量が小さかった気がします。力んでしまったのが惜しい、シベリアの寒空の下に流れるアムール川を想像しながら、徐々にリズムカルに波のように押し寄せては、流れゆくイメージのごとく歌う名曲ですね。この曲に挑戦する心意気を私は買いたい。



合唱で培うもの



合唱コンクール本番前の午前中はリハーサルと学級毎の練習時間だ。舞台では立ち位置の確認や入退場を練習する。この日の2年生は全員出席であった。2組の練習はK先生が合唱指導でこれない場合はT先生が見てくれました。圧倒的に少ない女子メンバーも少し加え、パートの練習です。

自由曲「手紙」はアンジェラ・アキさんの名曲。ソプラノがメロデ



※スペースで3年生の皆さんの笑顔は次回に揚げてさせていただきます。ご了承ください。



枯れた大地に独り 闇を恐れ光を求め 3年1組自由曲「ヒカリ」は絶望の闇から始まる。自由曲の選曲から幾度となく話し合いをもつて決めた曲である。2組さんといつても比較される1組さんですが、自分達の合唱がここから始まりました。

最初の闇から「祈り」へと流れるように歌い込まれていきます。満たされたい心に 泣きながらも積み込めば 光はともるのか。

リハサルから泣き出す女子もいました。緊張とこれまでの苦労などが思いだしたのかも知れません。もしも花々が咲き乱れ、もしも蝶達は舞い、から力が入っていく。手をかかげ、大地と共に 喜びの叫びをあげよう。「さあ、は喜びの賛歌だ。この曲を本番ではしっかり歌えたことは、とても良かった。男女のバランスがとても良い合唱でした。

2組は選曲で戸惑ったこともありましたが、抜群の団結力と女子のリードで、練習から一生懸命に取り組んだ学級の一つでした。パート練習も表現について楽しげに話し合っている様子が 見受けられました。

前を向きなよ、振り返ってちゃ 手く歩けない、「証」は女子のパートから静かに始まり、あたりまえの温もりなくして：から男子が低音の響きと 広がりを聴かせていく名曲だ。

練習では抜群のハーモニーでした。が、今日の女子の声の調子に男子が強すぎた感があったと思います。わずかに1点の差でした。音楽は消えていくことを痛感させられました。しかしながら、1組2組とも、金賞にふさわしい

合唱だと言っことは言うまでもありません。審査員全員が3年生の表現を誉めていました。成長した場面が見られて嬉しいとの言葉もいただきました。

S先生の提案のように、小学生達も招待して合唱コンクールを開催するレベルに達していると感じます。また、三小学校や老人施設などに合唱を届けに行っても良いかと思えます。指導されたK先生や担任、副担任、実行委員、パートリーダーの皆さん、お疲れ様でした。素晴らしい合唱コンクールでした。

